

## 質的改善および情報公開のための食文化教育の観点に 立った学校給食評価の試み

○秋永優子\*<sup>1</sup>，中村修\*<sup>2</sup>（\*<sup>1</sup>福岡教育大，\*<sup>2</sup>長崎大）

**目的** 学校給食の実施は、義務教育諸学校の設置者の任務となっており、自治体により、様々な面で取り組みに違いを生じている。しかし、学校給食関係者は他地域の状況をよく知らない場合が多く、実施内容を客観的に評価し、公開することが必要であると考えられる。著者らは、子どもたちにとって望ましい、質的により高い学校給食を実施するために、食文化教育の観点に立って、内容を充実させることを提案してきた。本研究では、学校給食の質的改善および情報公開の目的で、食文化教育の観点から学校給食の評価を試みたので、報告する。

**方法** 学校給食における食文化教育に関わる事柄を中心に、質問紙法により調査を行い、調査結果を学校別に、2つの角度から点数化することにより、給食の質を評価する。調査対象は、福岡県内の小学校6校の高学年児童926名、教師139名、学校栄養職員4名および給食調理員5名である。

**結果** 2つの角度から算出した評点は、ともに学校によって差を生じた。また、2つの角度、すなわち学校給食調理場の状況と、食べる側にとっての質的状況による評価は、かなりよく一致した。個々の事象に注目しすぎるにより見失われがちな、一見大差ない各自治体の学校給食の内容や調理場の現状が、食文化教育の観点に立った評価という総合的な把握によって客観的に明らかにできるとともに、この結果を前向きに捉えることによって、質的により高い学校給食の実現に向けて、それぞれの努力目標が具体的に設定できると考える。